

国際戦略調査研究委員会

意見交換会報告書

実施先：特定非営利活動法人泉佐野地球交流協会（i c a）

実施日：令和6年10月24日（木）

午前10時から午前11時30分

場 所：南部市民交流センター本館1階会議室

国際戦略調査研究委員会

委員長	新田 輝彦	副委員長	松村 正秀
	布田 拓也		中村 慎作
	向江 英雄		大和屋 貴彦
	日根野谷 和人		高橋 圭子
	大庭 聖一		

特定非営利活動法人泉佐野地球交流協会との意見交換会

令和6年10月24日(木)に特定非営利活動法人泉佐野地球交流協会(i c a)の方々との意見交換会を実施しました。

i c aは、1990年9月に設立された任意団体泉佐野地球交流協会から活動を引き継ぎ、2003年4月、世界の国々・地域・人々との出会いを求め、より積極的・計画的に親善・交流・連帯を深め、ふれあいを大切にし、地球規模での平和と繁栄・福祉・幸福に寄与することを目的として設立されました。以来、22年の長きにわたり、地域に根ざした活動を展開され、本市の国際化施策推進に大きく貢献されてきた団体です。このたびの意見交換会では、話題は多岐に渡りましたが、その主な内容は下記のとおりです。

i c aの活動内容について

- 《1》中国やスリランカなど日本語教室を希望する外国人が増えているため、日本語指導ボランティア養成講座を開講し、指導者を養成している。
令和6年5月に開講した講座では、11名の指導者が誕生した。
- 《2》日本語教室は、週1回、1時間半の個別指導で開催しており、現在、40人ほどの受講生が受講している。
受講生からは、受講料として月1,000円を徴収している。このことが、出席率の高さに繋がっている。
- 《3》泉佐野郷土芸能の集いでは、外国人の方に浴衣の着付けをしたり、オークいきいき祭りでは、民族衣装の体験などをしており、外国人と地域住民の交流の機会となっている。
- 《4》今年度から、国際都市フェスティバルへの参加や、韓国大邱広域市寿城区の高校生の歓迎会などのイベントを開催し、友好都市の学生の受け入れをしている。

意見交換会について

《課題》

- ・日本語教室を希望する外国人は、その多くが泉佐野駅周辺で居住しているため、泉南市との境界近くに位置するi c aまで自転車で通学している外国人がほとんどであり、通学が困難となっている。
- ・日本語指導ボランティア養成講座を年1回開講しているが、ボランティアの指導者が足りていない。
- ・市内小中学校等から、通訳の派遣依頼を受けるが、通訳者が不足している。

《要望》

- ・ i c a の移転先について、考慮してほしい。
- ・アメリカの学校教育では、外国人を集めたクラスで英語をフォローする先生がおり、その後、通常のクラスに入る。
いきなり学校に入っても言葉が分からないので、ついていけないため、大阪市でも、学校のクラスに入る前に2週間のプレスクール制度があり、簡単な日本語を教えている。本市でも同様の仕組みを作れないか。
また、外国人が学校を卒業した後、社会の一員として日本の社会で生活できる日本語スキルを身につけるシステムを構築してほしい。

要約すると以上ようになります。国際戦略調査研究委員会からも、日本語教室の卒業生との交流や、関西国際センターとの関係性、大阪観光大学の学生との交流などについて質疑がありました。国際戦略調査研究委員会では、この意見交換会を活かし、多文化共生社会を実現するための課題解決等に向けて、調査研究を進めて参ります。